

【資本主義の「市場」には法則がある、と言う話】

(前期資本主義の話。日本は前期資本主義であり
本当の資本主義じゃない)

どうもゆうです！

こんにちは！！

さてさて、前号で

【インターネットの登場が「人類に初めての資本主義」をもたらす】

っていう号を流しました。

なんかすごい反響がありました。

日本だと義務教育では前号みたいな内容教えてくれないわけですが

私たちが18歳とか22歳になって、それでこの

「資本主義ってなんぞや」ってのが

めっちゃ大事になるのですね。

が、社会に出たその時点で自分たちが戦わないといけない

資本主義市場のルールってのを教えられていないわけですね。

ちなみに前号を見た人からはツッコミが入るでしょう。

「資本主義ルールといっても日本は社会主義ベースであって
そこにちょっと資本主義のルールが入ってるだけではないですか！」

と。

そのとおりでございます。

だから日本市場で利益をあげていくためには
社会主義の中で資本主義ルールが「ちょこっと」注入されてる
ってことを理解する必要があるわけですね。

そこで勝負する、と。

自分が戦う市場を理解するってのは結構大事なんです。

ちなみに私がよくいる韓国ですが韓国なんかのビジネスは
あれです、資本主義の色合いがとても強い。

逆に社会主義の色合いが弱いですね。

だから資本主義ルールに乗っ取って経済活動なんかが
しやすい部分はありますよね。

これからもういろいろな国で経済活動するのが普通に
なってくるんですけど

「その市場に資本主義がどれだけ根付いているか」

ってのは見ていく必要があると思います。

ジョージソロスなんかは悪魔の投資家と言われるけど

彼なんかはその辺よく見て投資している人ですね。

それで「資本主義とは何か」についてもっと知りたい

って人が結構いたので

今日はもう少しその資本主義について、書きますね！

まず、「何が経済のエッセンス」だと思いますか??

私たちは経済活動をしているけど「じゃあその経済って何だ」

となります。

「経済を一言で言え」と言われてなんと答えます??

答えは

「市場」です。

為替市場、株式市場も「市場」ですね。

が、これはさすがと私は思ったけどあの復活した

与沢さんなんかは

そこに気づいて書かれていたけど

為替市場は「比較的」資本主義の市場に近い。

が、日本の株式市場は強烈な統制がありますよね。

だからあれは資本主義の市場とは少し言いづらい、という

点があります。

が、逆にそこで「ひずみ」が発生するので裏技とかの

余地が出るってことでもあります。

空売り規制、とかあるから儲ける方法がひずみの中で

生まれるって感じですね。

これはまたいずれ扱います。

それで経済を理解すること、すなわち市場を理解すること、

です。

だからかずもさんのダウ理論なんかは多くの人が

今動画見まくって学んでもらってるところですが

この「市場分析」こそが経済学の要諦(ようたい)となります。

なぜ日本政府が借金だらけになって、どうしようもない
現状になってるか？

たとえば資本主義でもっとも大事な「市場」があるのですが
この「市場分析」に関しては東大出身の子たちは
暗記は得意なんだけど、

知識をいろいろつなぎあわせて、新しいものを創造するのは
不得意なんです、

その彼らがおっさんになって官僚になっているわけです。

この官僚というのは自分で稼いだ経験がないから
市場がまず分からないという問題点がありまして

これが大きくは日本の資本主義というのが「一度たりとも」
日本に出現していない理由のひとつです。

だから私たちはFXでさまざまな市場分析を行うけど
この市場分析を行う力をつけると、簡単に言うと

資本主義でもっとも重要な「市場」がわかるわけなんです。
ダウ理論とかで。

だからこれからどう考えても投資家の時代になるんですね。

それで今までは「使えなかった経済学」ではありますが

この経済学の大事な部分として

「完全競争」というのがあると言う話をしました。

その完全競争の4条件の中で「完全情報」というのがあって

「すべての相場参加者が等しく、売買に必要な情報を

保有している」

という条件なのですが

これはネット前は完全に不可能・非現実的だったと。

が、ネットの登場で多くの人が「ダウ理論」をたとえば

このメルマガで知ることができるわけだし

ネットの登場によってこの情報の差、それを

情報の非対称性、とか言うのだけど

これが解消されていくのでこの「完全情報」という

もっとも資本主義市場で難しい点がこれから解消されていくよ～

って話なんです。

だから資本主義は終わったどころか

「これからスタートしていく」とさえ言えます。

そしてみんなこの大きな潮流に気づいていないと言えます。

それで、その「本当の」資本主義市場がこれから

ネットがさまざまな制約をゼロにすることで

否が応にも到来するわけですが

そこで使われるのが「経済学」ですよ。

経済学は今までは使えない学問だったけど

これから資本主義ってのがある種純化していきますから

ようやく経済学がちょっとは使える学問になっていく

とさえ言えます。

それで学問にはいろいろあって

経済学とか法律学、心理学、人類学、社会学

政治学とあるわけですが

「経済学と他の学問の違う点」ってのがあります。

その違いとは何でしょう??

これはですね、経済学が研究対象にするのは

「近代資本主義」「だけ」なんです。

たとえば政治学だと古代ギリシャからスタートして

古代ローマとか、中世、近世、近代・・・

とすべての時代が研究対象になるんだけど

経済学だけは「近代資本主義」「だけ」なんです。

時間的にも地域的にも限定されているんです。

法律学なんかだと近代だけではなくて

中国法、イスラム法も研究するし、韓非子なんかは

マキャベリの君主論に並ぶ理論政治学の力作で

ここも研究しないとイケない。

けど経済学ってのは近代資本主義以外は見なくていいんです。

これが大きな違いですね。

経済発展論、とか近代以外を扱うものはあるにはあるけど

内容は貧弱なんです。

それで今アジア各国が、そして次は中東やアフリカがそうなのだけど
これらの発展途上の、今からまさに発展していこうという
国々が死ぬ気で学んでるのが
やはり「近代資本主義」であるということです。

この「近代資本主義」をいかに自国に根付かせるかの
戦いが世界であると言ってもいい。

その戦いから唯一抜けて社会主義まっさかりの
日本だけは特殊なんです、

だからこそ多くの日本人が海外に行くと

海外の人とどうも話しがかみあわない、という現象が
出てくるんですね。

いわゆる社会主義の思考の型と、資本主義の思考の型は
かなり違うわけです。

社会主義だと「出る杭たたけ！ ベッキーたたけ！」でしょうけど
資本主義の思考の型の住民たちはどうも
そういう動きをしないのですね。

「勝手にしとけば～大人なんだし」です。

日本人の多数がこの資本主義の型を身に着けるには
あと数十年かかる、と私は見えています。

ちなみにマックスウェーバーという学者がいるのだけど
彼の研究だと、古代エジプト、メソポタミア、

あとはヘレニズム、古代ローマ、中世イタリア

中世末の南ドイツ、あとは古代中国

これらは技術も資本もある種「すごい蓄積されていて」
資本主義の手前まで行ったといわれています。

が、ついに資本主義になることはありませんでした。

これらの社会状態を「前期資本主義」と言うのですが

まず、本物の資本主義＝近代資本主義と

これら前期資本主義というのは似ているけど

全然違うものなんですね。

おたまじゃくし と なまず の関係に似ていて

それらは一応ちよつとは似ているんだけど

おたまじゃくしは どんなに頑張っても なまずに
なれません。

それととても似ています。

それなので経済学を理解するってのは

簡単に言うと

「資本主義市場を理解する」ってことなんですね。

そのために私たちはダウ理論とかプライスアクションとか
フィボナッチとか使ったりするわけですね。

FX や株のテクニカルや裏にある政治経済現象分析、

これは実はだから経済学の最先端を勉強してるんだよ～～

ってことにもなります。

ちなみに「なんで日本の官僚機構は天下りや税金無駄遣いが
いまだ横行しているのか？」

と言うとこれは単純に言えば彼らに

「資本主義の思考の型＝マインドセット」がないからです。

資本主義では所有権が絶対、なのでありますが

だから税金から吸い上げた公金はいくまで人々のもの

という考え方をするわけですが(公物っていう)

日本の官僚機構は税金でとりあえず表向きキレイゴト言うんですね。

「社会保障のために」

「みんな」の協力で税金が成り立ってます～

とか言う。

ちなみに彼らは全体主義として洗脳して税金払わせたいから

「みんな」という言葉を良く使うんですよ。

これは「同調圧力」をかけて民衆に言うこと聞かせるためです。

それで税金吸い上げて、そんでその税金、公物ってのを

「自分のもの」と思うわけですね。

そんで箱物作ったり、自分らの天下りの給与にしたり
あとは彼らの手下の公務員の給与は民間の2.3倍以上にしたり
するわけです。

これは資本主義で重要な概念として所有権の考え方があるのだけど
それを国家自体が理解できていない状態でありまして

まだだから日本は未成熟な政治状態であって
資本主義を導入するには早すぎる島国である、

とさえ言えます。

なぜ人々が貧しくなっているか？といえば
これは簡単。

「日本は本質的に社会主義であり、
資本主義の考えの型がまだ根付いていないから」
でありますね。

それで多くの日本人が義務教育で洗脳されているのですが
彼らは「日本は資本主義です～」と教えられるのだと
思いますが、

これは政治学や経済学学んでる外国人たちが聞いたら
ギャグかと思うと思います。

公的部門、すなわち国家官僚とかの役人が
私的企業を明確に管理しているのに

それを資本主義と教えるって大丈夫かとなります。

中国の方が「うちの国は資本主義アルよ」といったら
日本人は笑うだろうけど、
外国人が思う日本の市場についてもその感じに近いでしょう。

日本人は資本主義は元からあるもの、と教えられるけど
実は資本主義というのはそういうものではありません。

資本主義というのは歴史的、地域的に

ごく特殊な出来事なんです。
~~~~~

資本主義はまあ「珍しい」システムであって  
特殊なものであって、

そして特殊な特徴を持つ市場が資本主義市場なんです。

それで資本主義を理解するには

「市場＝マーケット」を理解しないといけないのですが

市場を本格的に理解するために必要なのは

「市場には法則がある」ってことです。

経済法則の基本は市場法則であります。

「こう動いたらこうなっていく可能性が高い」

とかダウ理論とかであります

ああいう法則です。

ちなみにマルクスという人はこれを

「疎外(そがい)」と呼びました。

「〇〇さんに疎外された はぶられた」

みたいな意味の疎外です。

「市場には法則がどうもあるぞ」ってのは

アダムスミスって人が発見したことなのですが

それは後にマルクスにも確認されてさまざまな研究で使われました。

イギリス、アメリカの一応資本主義ではこれらは当たり前のことになっているのですが

日本では当たり前ではない、わけですね。

分かりやすい事例だと GPIF の資金いれて相場動かそうとしたり

あとは為替介入で相場動かそうとしたり

しておりますが

多くの実力あるトレーダーは「なぜダウ理論的に

下落方向なのに逆張りすんの」と思いますが

そして大きな損失を計上するのですが、

これはやはり彼らが市場法則がある、ということ

理解していないからです。

実はこの間違いは江戸時代にも行われたのですが

そしてそれは大失敗しているのですが

数百年経った今でも日本は同じことをやっている

ということです。



「市場には法則がある」ってのを理解していないから

財務官僚とかは規制でがんじがらめにしてみたり、

今の株式、為替市場のように違法相場操縦をやって

相場を自分で動かして価格をコントロールしようとしてみたり、

そういうことをするわけです。

**PKO**とか言うけどそれは単純に言うと「違法相場操縦」なわけです。

なぜ違法なの？というそれは資本主義の考え方から

逸脱しているからですね。

ちなみに「なぜ盗みはいけないの？」という

資本主義では所有権は絶対だからです。

だから盗みは罰せられるとなります。

こういうことを子供のうちから本当は教えるべきです。

それで「市場には法則がある」とはどういうことか？っていうと

「市場には客観的な法則があって

人間の意志ではこれを変えることができない」

というのが市場の法則です。

仮に人間が日本政府のように相場操縦をすればかならず

「市場の復讐」を受けるってわけです。

逆を言えば本質的に相場を人為で一時的に動かせば

その後必ず「ひずみ」が発生するので

そこで儲けられるんです、ということにもなります。

この市場法則を無視して人為的に相場を動かそうとするのは

経済を破壊しますので

それはまるで虎と素手で戦うようなものであって

それはボブサップに

アンガールズの田中さんが喧嘩を売るような

ものであります。

そういう勇ましいことを日本政府はやってるわけですが  
これは必ず市場の復讐を受けるわけですね。

ちなみに上の「疎外」ってのはどういうことか？というと

あなたが例えば家の庭でキュウリを作ったとする。

そのキュウリはあなたが庭で作ったものであるから

あなたのものですね。

あなたの所有物です。

しかしキュウリの値段は市場法則、すなわち需要と供給に

よって決まるわけだから

それはあなたで勝手に決められないわけです。

これを市場法則と言います。

キュウリはあなたの所有物だけど

ひとたび市場に出されたら最後、

その愛しいキュウリの価格形成はあなた自身の

自由ではなくなるわけです。

なんというか愛しいキュウリが急によそよそしいもの  
になるわけですが

それが「疎外そがい」の意味です。

が、この「疎外」があるからこそ  
市場分析とか経済学が意味を成すんですね。

たとえば作ったキュウリを1万円で売りたい売りたいと  
思ってもそれは無理な話です。

相手をプロパガンダで洗脳して売る人もいるけど  
それは新興宗教の話であります。

キュウリはどう見ても1万円の価値はつきません。

一度 疎外 された人間はそれを1万円で売りたいくても  
売れませんよね。普通は。

が、「法則」を発見してそのキュウリを  
1000円くらいで売ることはできるかもしれません。

もしくは食糧不足で需要が少なくなれば1万円になるかも  
しれません。

要するに「法則」を発見して、それを利用することなら

~~~~~  
出来ます。

~~~~~  
これを「疎外を克服する」と言います。

克服するを止揚(しょう)するとも言います。

この「疎外を克服する」ために

それこそ私たちはFXなんかだと

ダウ理論使ったり「真の山」「真の谷」を使ったり

水平線使ったり、プライスアクション使ったり

フィボナッチやPIVOT使ったり

するわけですね。

が、この社会現象による「疎外」の概念、考え方は

いまいち理解されていないわけですね。

特に官僚たちはここが理解できません。

「社会現象には法則がある」

とか

「その法則ってのは、自然現象による法則のように

客観的なもので、

そして人間の意志ではどうすることもできない」

ものなんですが、

これに納得できない人たちが多数生息しております

だからその多数である人たちと価値観を同じくする

日本政府は市場操作を行おうとするわけです。

が、これは市場の復讐を受けるわけであって

それが「税金で日本人から収奪したお金ってのが

どんどん減少していき、国家が破滅する」

という事態に収束していくわけなんですね。

この疎外の概念とかが分かっていない人たちが

いわゆる社会主義者というものなのですが

それが安倍首相もそうだし、あとはスターリンとかも  
同じことをやっていました。

ちなみに安倍首相とスターリンは皮肉ではなく  
本当に政策分析すると非常に似ており

例えばスターリンは男女平等を押し進めたし  
そして経済統制もしました。

まあ全部失敗しております。

ちなみに経済の話だけだとつまらないので  
男と女の話もしますが

とりあえず歴史的事実だけを見てみれば

スターリンは男女平等政策をしまして

女性の社会進出を行ったのですが

そこで起こったことを記載します。

まず、ソビエト政府は「女性解放」を

実行しようとしたわけですね。

そこで家族を解体させようとして

それまでの女性の家事全般を

「食堂、洗濯場、託児所等」に移行することにしたわけです。

んで、「家庭の負担」から女性を

「解放」することにしたのですね。

前に「日本政府しね」という問題が託児所問題で起こったわけですが

そしてこれをマスコミが大々的に報道

⇒託児所増やす という流れになっておりますが

なぜマスコミが大々的に報道したか？というのは

この辺の政策は実は安倍さんの政策とは矛盾していないのだろう

と私は見えています。

が、この試みはは失敗に終わりました。

結果、

イギリスの労働者の惨状と同じ状況になったのですが



まず

「青少年の性秩序や家族秩序に関する混乱が生じ」、

「離婚が激増し」

「出生率が激減した」

また「少年犯罪・非行が急増」

「愚連隊の増加に関する報道や批判」が高まり、

「彼らは勤労者の住居に侵入し、略奪したり  
破壊したりして、抵抗者は殺戮した」。

こういう結果に終わったのですね。

そして性の自由化と女性の解放は、

その目的とは裏腹に

「強者と乱暴者を結果として

助けることになり、弱者と内気な者を痛めつけることとなった」。

わけです。

日本でも出生率が下がっており、さらに

家族秩序混乱も見られますし

あとはDVなんかも増えているようですし

結構状況としては当時のソ連と似てきているなというのは

正直感じます。

ウーマンリブの男女平等は非常に聞こえはよいですが

実際にスウェーデンだったりアメリカでは

シングルマザー片親が増えておりますが

私なんかも実はそうでしたが

そういうシングルマザーが増えるわけですが、

これは日本でも同じ現象が20代で起こっているのが

必然性を持っております。

スターリンというのは経済を統制しようとしただけではなくて

男女という性も統制しようとしたわけですが

これは見事に失敗しております

当時のソ連は1934年には家族政策、女性政策を

見直すことを余儀なくされました。

ちなみに日本では最近「結婚できない30代女性」

というのがテレビなんかを時々みると

すごい注目されてオンエアされているわけですが

このような社会現象というのはスターリン政策を

学んでいると必然的である、と分かってきます。

がこれはどうも言うてはいけない事になっているようです。

だから安倍さんってのはあの人は保守を名乗るけども  
実際は非常に左であって 資本主義の考え方である  
自由市場という考え方と反対のことをしている

という、この矛盾がありますね。

最近なんかは極左という人たちは自分たちが極左という  
まずいから保守を名乗るようです。

それで日本の官僚たちも大きく見ると  
社会統制をするわけであって

金融市場を見ても「市場を統制する」傾向が非常に  
強いわけですね。

これは上に書いた「(人間が変えることができない)市場の法則」  
を知らないからであって

上の「疎外」の意味を学んでいないからである  
と言えます。

このような人たちが公的部門として私的企業を管轄しているのが  
日本という国でありまして

それはだから本質的には社会主義と定義づけられるのですが

社会主義政策というのはやはり成功した事例はないわけでした

それは歴史の法則に基づくものでありますけども

だから日本の経済がこれからも衰退していくのは

実は必然的であるといえます。

だから次の世代の起業家とか投資家という人たちが

上の「市場」を理解するのは大事でありますし

そして今日書いた「疎外」の意味を理解することも

大事なんですね。

疎外というのは「疎外の克服」によってのみ

すなわち市場法則を理解することによってのみ

達成される、というわけです。

ちなみにこれはまた今度書きたいな~と思うのですが

今の日本の「お上」が「市場」を統制するってのは

今にはじまったことではありませんで

徳川時代にもされていたことなんですね。

だから実は日本の2016年の経済システムってのは大きくいうと

江戸時代から実は進歩していない状態であって

根本的な考え方は変わっていないということです。

アジアの国々がどんどん資本主義的な思考の型を

法律などに埋め込んで調整している中

日本の場合はそもそも法律より「空気」が優先されるわけですね。

たとえばベッキー問題が非常に分かりやすいのですが

あの子は私はまったく興味はないですが

ただ傍目から見たら彼女のやってることは法律に違反しておりません。

民事裁判とかで奥さんが訴えることはあるかもしれませんが。

が、日本という社会では「マスコミが作成する空気」が

優先されるため

ベッキーという人は「よく分からない 世間様」に

謝るわけですね。

「違法なことで敗訴したわけでもないのに  
なぜ謝るの？」

というのがおそらく 資本主義純度の高い国々の人の  
考え方になります。

法とか憲法とかその下の法律という考え方があるから  
そう考えるわけですが(それらが行動規範になる)

日本の場合は実はこの<法>の支配という考え方も  
根付いていないと言えます。

<法>より空気が重視される国です。

ちなみに<法>と法律は違いますね。

<法>という人類普遍の考え方があり、憲法がその下にあり  
その下に法律があり、さらにその下に条例やら会社の規則がある。

だからたとえば会社の規則が法律や憲法に違反していれば無効であります。

実際に裁判やれば通常なら勝てます。

もっと言えば多くの日本の警察権力というのがあってこれが  
経済統制と社会統制をしているのですが、

彼らが最近よく使うのが「条例」だけどそれは憲法に違反してるので  
本来の民主政であれば無効と考えられます。

が、日本の場合はそもそも民主政ではなく社会主義でありますから  
憲法に条例が違反してても別に大丈夫なんです。

仮に民衆が憲法違反だ、と裁判起こしても  
3権分立は成り立ってませんから

立法権 法律を作る権限。国会が持つ。

行政権 法律に基づいて政治を行う権限。内閣が持つ。

司法権 法律に基づいて裁判を行う権限。裁判所が持つ。

たとえば行政権の違憲性を司法権側の裁判官に裁いてもらおうとしても  
癒着しちゃってますから、まあ機能しないんですね。

そういう意味では日本は実は経済からの視点で見ても  
社会主義と言えるし中世的ですし

また政治の面でも発展途上と言えます。

そしてこのように「法」の考え方より

空気が重視される社会状態だと

資本主義というのは到底根付かないわけですね。

これはどういうことか？というと一応日本には

「相場操縦罪は違法」というのがあります。

金融商品取引法第 159 条ですね。

これはなぜ違法か？というと

資本主義システムでは自由市場というのが重要なわけであって

その自由市場の自由を侵害してしまうからです。

資本主義を守るための法律と言えます。

だからそういう法律があるんだけど

今の安倍黒田がやってるのはだから

これに反する違法行為なんですが

じゃあそれを裁判官が裁けるか？といえは裁けませんよね。

だからそういう政治体系の国では、

「法より空気が優先される国では」

資本主義は機能しないと言えるわけです。



だから日本に一度も資本主義が存在していたことはない。

と言えるわけですね。

それなのでこれからの世代の起業家投資家は

上の世代のおじちゃんたちとちがって

「市場」を理解し

「疎外」を理解し

「資本主義の条件」を理解し

それで経済活動を行って社会をどうするか？

と考える視点が必要になってくると言えます。

が、この動きが出るのが数十年かかりそうだ・・・

というのが資本主義を勉強していて私が思ってる本音でありますね。

この辺に気づいているのがいわゆる

新興起業家や投資家です、だから彼らは日本人として

海外に出て勝負しているということですね。

社会主義市場で勝負するより資本主義市場というのが

これからネットの登場で完全情報が達成される中で

どんどん「産声をあげるから」そこで勝負したい

という人間の欲求であります。

資本主義に対してはあまりにも多くの批判がされてきましたが

が、生き残ったのは結局近代資本主義だけでした。

そして実はこの資本主義というのはまだまだ発展途上で

アメリカやイギリスは資本主義か？というと

純粋な意味では違うのですね。

「資本主義側になるべくしようとしている」だけです。

そういう意味では今本来論じるべきは

「日本発信の資本主義とは何か」という部分で

「いかに完全情報に近づく体制を作るか」とか

「市場統制しようとする官僚機構を完全解体するにはどうするか」

とか

「私有財産制、所有権を侵害する税金という問題を  
どの程度に収めるか、その税金で食べてる公的部門の  
人数をどこまで減らすか」

とかそういう話になります。

そこで日本型の資本主義を世界に提示する必要があるのですが  
この段階になるまで何十年はかかるだろう、  
下手したら100年以上かかるかも・・・

というのが私が考え込むところですね。

資本主義、について考えるといろいろ見えてくるものがあります。

今日書いた「疎外」の概念と「疎外の克服」の概念は  
重要で、

その「疎外の克服」をするためにFXとか株式の  
相場分析学ぶんだよ～ってことなので

トレーダーにとっても大事な知識ですね。

ちなみにもっと言うと 無料FX塾のかずもさんの  
ダウ理論の話は市場の法則、の現代版の分析方法なんだよ  
ってことでもありました。

学ばれている方はぜひその辺を知って学んでほしいです。

それではまた！

ゆう